

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 石巻市立牡鹿中学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒986-2523

宮城県石巻市鮎川浜鬼形山1番地24

E-mail jhsoshicl@city.ishinomaki.lg.jp

Website _____

生徒数 男子 21名 女子 16名 合計 37名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、ESDを「持続可能な社会づくりを育む教育活動」と捉え、ESDのキーワードを「たくましく未来を創る生徒」とし教育活動を推進している。また、ESDの活動のテーマを「輝け！牡鹿の太陽たち」と掲げ、ESD推進の目標を次の3点とした。

- 1 地域の方々との触れ合いを通して「他と交流し学ぶ力」を育成する。
- 2 地域開発や自然愛護への意識と意欲の向上を図る。
- 3 地域の地場産業を知り、体験することで、自らの進路を開拓し、地域の復興と発展に貢献する意欲と態度を育成する。

具体的には、「地域貢献活動『笑顔創造プロジェクト』」と「地域教育力の活用」の2つを柱に、①地域巡り、②網地島白浜海水浴場清掃、③牡鹿鯨まつりへの参加、④クリスマスドリーム、⑤職場体験学習、⑥鯨について学ぶ教室を行った。

①地域巡り

学区内に分かれて自分たちの住む地域の清掃活動を行った後に、仮設住宅や福祉施設において牡鹿中学校の伝統芸能である「侍ソーラン」を披露し、地域住民に笑顔と元気を与えた。

②網地島白浜海水浴場清掃

網地島の白浜海水浴場の清掃活動を海開き前に行い、地域の復興や活性化に取り組もうとする心情を育てた。また、清掃活動後に「侍ソーラン」を披露し、網地島の住民に笑顔と元気を与えた。

③牡鹿鯨まつりへの参加

地域の伝統的な祭である「牡鹿鯨まつり」に全校生徒で参加し、会場周辺の清掃活動と「侍ソーラン」の披露を行い、地域の復興や活性化に取り組もうとする心情を育てた。

④クリスマスドリーム

牡鹿中学校区の小・中学生の交流会（クリスマスドリーム）において、各学校が合奏やダンスなどを披露し、交流した。全校合唱の発表や「侍ソーラン」の披露を通して、小学生や保護者に笑顔と元気を与えた。

⑤職場体験学習

地域の事業所を訪問し、地域の地場産業を知り、体験することで、自分の将来の職業について考える機会を持った。

⑥鯨について学ぶ教室

地域の捕鯨会社の方や鯨について研究している大学の先生など3名の講師を招いて、鯨の生態や捕鯨の歴史などについて全校生徒で学んだ。



① 地域巡り



② 網地島白浜海水浴場清掃



③ 牡鹿鯨まつり



④ クリスマスドリーム



⑤ 職場体験学習



⑥ 鯨について学ぶ教室

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (志教育、協働教育)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述 夏季休業中)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校のユネスコスクールとしての主な活動は、地域貢献活動「笑顔創造プロジェクト」と「地域教育力の活用」の2つを柱としたESDの推進であり、このどちらも総合的な学習の時間に位置付け、全校生徒で取り組めるよう教育課程を編成している。

地域貢献活動「笑顔創造プロジェクト」では、地区の清掃活動と「侍ソーラン」の披露を行っているが、地区のどこで行うかなど、生徒と共に協議の上、決定している。また、「地域教育力の活用」では、毎年テーマを決め、今年度は「鯨」、来年度は「穴子」と、牡鹿地区内の地場産業について幅広く学習できるよう工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域貢献活動「笑顔創造プロジェクト」で地域住民に披露する本校の伝統芸能「侍ソーラン」の伝承は、教員が指導するのではなく、上級生が下級生に教え、生徒間の持続可能な伝承活動にしている。これによって、先輩後輩の良好な関係が作れ、将来、地域の発展に貢献する人材の輪が広がると考える。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末に生徒及び保護者対象に行った教育活動アンケートの結果より、地域貢献活動「笑顔創造プロジェクト」を通して、「人の役に立てる人間になりたいと思った」と回答した生徒が100%であったが、保護者は93%であった。本校のユネスコスクールとしてのESDの活動において、全生徒は自己有用感を感じているが、それが保護者まで十分に伝わっていない。今後、本校の活動を今以上に保護者や地域に発信していく必要性を感じた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校のESDの活動について学校便りやホームページで保護者や地域に公開したり、県内外の学校との交流において発表したりするなど、活動成果の発信を行っている。それによって、生徒一人一人が自分たちの活動に自信を持って取り組めるようになってきている。また、保護者や地域に「地域の学校」として認められ、保護者・地域との連携による協働教育及びチームとしての学校体制の構築が図られてきた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

各地区との連携を図り、地域巡りによる清掃活動と「侍ソーラン」の披露を行った。また、「鯨について学ぶ教室」では東京海洋大学で鯨について研究している中村 玄助教に講師を依頼し、全校生徒と保護者が鯨について学習した。

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASP Univ Net)加盟大学である宮城教育大学の市瀬智紀教授を講師に招き、ESDの教員研修会を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールに加盟している近隣の小学校(石巻市立鮎川小学校)と交流会(クリスマスドリーム)を行い、互いに活動を発表し合った。

また、ユネスコスクール全国大会やサステイナブルスクール研修会、国際ESDワークショップ、ユネスコリーダーシップ研修会などに教員を派遣し、国内外のユネスコスクールの教職員との交流を通して、ネットワークの形成を図った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

ユネスコスクールとして行っているESDの活動である地域貢献活動「笑顔創造プロジェクト」を生徒会が中心となって企画し、継続して活動に取り組んでいることで、身の回りの環境美化に努め、牡鹿の自然を大切にしていこうとする意識の高まりが全校生徒に見られた。
また、生徒が地域での職場体験学習を体験することで、地域の産業について知り、興味を持ち、将来の職業について考えることができた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

本校の平成30年度のユネスコスクールとしての活動も、ESDの推進が主であり、地域貢献活動「笑顔創造プロジェクト」と「地域教育力の活用」の2つを柱に活動する。

地域貢献活動「笑顔創造プロジェクト」では①地域巡り（5月）、②網地島白浜海水浴場清掃（6月）、③牡鹿鯨まつり参加（8月）、④クリスマスドリーム（11月）、⑤職場体験学習（9月）を実施する予定である。

また、「地域教育力の活用」では、①牡鹿中生がデザインしたラベルの鯨缶の販売と②地場産品の「穴子」について学ぶ教室を開催する予定である。

そして、平成30年度は「サステイナブルスクール」として3年目であり、牡鹿中学校がサステイナブルスクールとして取り組んだESDの活動を広く地域の発進するために、実践発表会（ESD公開）を開催したいと考えている。